

# 科学技術・イノベーションにおける国際交流・協 力に関するインタビューの結果



科学技術・学術政策局 科学技術・学術戦略官（国際担当）付  
令和3年3月26日



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

## 1. 主なインタビュー項目

現状認識・課題・対応策などについて外部有識者(※)から意見を聴取。

- 国際共同研究を行う動機・経緯等
- 日本の各種プログラムの現状
- 研究者の国際流動性
- 機関の戦略・国際化
- 新型コロナウイルス感染症の影響

有識者(※)

大学等研究者6名、  
大学等マネジメント5名、  
民間企業研究者2名  
研究資金配分機関5名

## 2. 有識者インタビューで得られた主な意見

- (1) 国際化を推進する目的
- (2) 国際共同研究について
- (3) 国際頭脳循環について
- (4) 大学・研究機関・研究資金配分の国際化
- (5) コロナ禍における国際協力



## (1) 国際化を推進する目的

- 国際共同研究の目的は研究分野や相手国により多様なのではないか。  
例えば、
  - 先進国(アメリカ・欧州諸国等)との最先端分野における共同研究
  - 新興国・途上国との国際共同研究による外交的科学技術協力
  - 企業の参画によるビジネス展開の地ならしとしてのネットワーク形成があるものとする。
- 頭脳循環は国際人材の裾野を拡大するために重要である。
- 国際化の指標とされる国際共著論文数は、研究活動の国際化によって後から付いてくる結果にすぎず、国際共著論文数の引き上げ自体を目的としてはならない。

## (2) 国際共同研究について



- 国際共同研究の公募が相手国や研究分野など事前情報無しに開始されると、研究者が、公募締め切りまでに十分な時間をかけて研究計画を構想し提案書を作成することができない。
- 異分野融合領域を設定し支援するような取組が十分にできていない。
- 国際共同研究で創出された研究成果を切れ目なく社会実装、実用化に繋げるために、国際産学連携(2+2)を推進するのが良いのでは。ただ、創出した知財の取り扱い、その他秘密事項などについて、大学等の研究者だけでは適切な対応が困難な場面があるのでないか。
- 社会課題の解決には自然科学・工学と人文学・社会科学との共同が不可欠であり、その実現のために、国際協力における両者の連携のあり方について検討する必要がある。

## (2) 国際共同研究について (続き)



- SDGs 目標達成のためには社会実装の実現が必要だが、たとえば SATREPS では採択研究課題毎にその特性(目指す社会実装の種類、想定するイノベーションインパクトの範囲、研究開発フェーズなど)が異なるため、研究成果活用のための整理が必要ではないか。
- 国際共同研究事業では研究課題と協力相手国が決められてしまうため、研究者は、対象国内のみで、当該研究課題内で閉じて地球規模課題を解決しようとしてしまうのではないか。関連し合う他の研究課題とのシナジーを発揮させ成果を包括的に扱う取組が十分でない。
- SATREPS 等により研究課題の支援を通じて相手国に投資した研究資産が、研究終了後に社会実装・実用化に向けて有効に活用されていないのではないか。



### (3) 国際頭脳循環について

---

- 日本人研究者の内向き志向の傾向が続いている。
- 日本人研究者が、日本が強みを得たい分野の研究が学べる国・地域へ渡航するなど、戦略的な人材の送り出しができていない。
- 海外先進国(アメリカ、欧州諸国等)にとって日本に研究人材を送り出す意義、魅力が薄れているのではないか。

### (4) 大学・研究機関・ファンディングエージェンシーの国際化

---

- 国際共同研究プログラム(SICORPなど)の予算の大幅増加が見込めない中で、より大きな予算が配分されている国内向けプログラム(JST戦略的創造研究推進事業など)の国際化を推進するのが有効と考えられるため、なお一層の国際化が望まれる。

## (5) コロナ禍における国際協力



- 国際的な人の往来が止まり、日本人研究者による海外フィールドを使用した現地試験の実施が困難となっている。  
その中で、一部の研究者では、実験設備の遠隔利用により、共同研究が滞らないような工夫をしている。
- 既に協力の繋がりのある海外研究者との間では、研究成果の情報交換や共有をオンライン上で効率良く進めている。
- 一方、対面活動による偶然の出会いといった副次的効果が損失し、新たな人的ネットワークの拡大が困難になっている。特に、海外との人的ネットワークが十分に形成できていない若手研究者には不利な状況。